

第 1 回宮城県災害薬事コーディネーター研修を実施しました (2022/11/23)

テーマ：災害薬事コーディネーター

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2022年11月23日（水・祝）、東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）にて第1回宮城県災害薬事コーディネーター研修が実施され、宮城県内の災害薬事コーディネーター、行政職員など15名が受講しました。本研修は、宮城県が県内の災害薬事コーディネーター向けに初めて実施した研修で、東北大学災害科学国際研究所共催、災害医療 ACT 研究所（宮城県石巻市）が業務委託を受け、実施したものです。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が実習コーディネーターを務めました。

被災者の生命や健康を守るために、国内では DMAT や災害拠点病院などさまざまな災害医療体制が整備されてきましたが、災害医療が円滑に機能するためには薬剤の流通は不可欠です。理由は簡単、薬がなければ治療できないからです。宮城県では、東日本大震災や令和元年台風19号の対応経験から、令和3年3月に災害時薬事関連業務マニュアルを整備し、県災害薬事コーディネーターの業務を明記、令和4年2月に宮城県薬剤師会または宮城県病院薬剤師会が推薦する薬剤師22名に宮城県災害薬事コーディネーターを委嘱しました。今回、その薬事コーディネーターが一堂に会して初めての研修会となりました。

当日は、宮城県保健福祉部薬務課千田恵課長の県災害薬事体制概要説明から研修が始まりました。参加した薬剤師達は、被害想定のお考え、情報記録・伝達、資源管理などについて講義を受け、実習を行い、一日の締めくくりに感染症やロジなどの具体的課題に対する本部運営訓練を行いました。普段の薬剤師業務とは全く異なる災害対応研修に、持ち帰るものも多かったようです。県内災害薬事体制に詳細の決まっていない部分もあり、災害薬事コーディネーターと行政が意見交換する良い機会にもなりました。



災害医療 ACT 研究所
森野一真 理事長



宮城県薬務課から薬事関連
業務マニュアルを説明



宮城県災害薬事コーディネーターの業務



課題に対しグループワークで
回答を導き出す



グループでの検討結果を
発表する受講生



多目的ホールを広く用いて
感染対策を実施